

社会福祉法人 創文会
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



Topia

第57号



<発行所>
相談支援事業所
ハートピア出雲

〒693-0014
出雲市武志町 693-6
Tel: 0853-23-2720
Fax: 0853-23-2721
E-mail: shien@heartpia.or.jp
ホームページ
<http://www.heartpia.or.jp>

地域の皆さんとの交流活動

～出雲工業高校3年生が電動車いすについて学びに来られました～

出雲工業高校では「地域課題解決型学習」の一環で、障がいのある方などがより快適に生活するために、一般的な車椅子の電動化の研究・製作に取り組まれています。

この度、出雲市社会福祉協議会からお話を頂き、(ハートピア出雲利用者の石田充樹さんが)工業高校の生徒さんからインタビューを受けました。



●出雲工業高校3年生の生徒さんたちから質問を受ける電動車椅子ユーザーの石田さん(写真右から2人目)。

電子機械科の3年生5名が電動化にあたっての助言を受けるため、普段の使用感や困りごと、改善点などについて意見交換をしたんですよー。

生徒は「電動と手動の切り替えは必要ですか?」「折り畳み式にする必要がありますか?」など、製作に必要な質問を真剣にしていたんですよー。

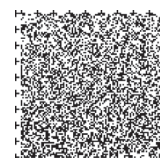
僕はそれを聞いて、マジで普通の車椅子から作るの!と思ったけど、生徒の熱いまなざしを見て魂を感じました。マジで完成を楽しみにしていると伝えました。

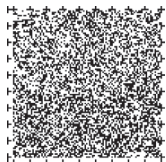
来年1月頃の完成みたいなので、完成したら見られるかなー!?お・わ・り。

(文:ハートピア出雲デイセンター利用者 石田 充樹)

もくじ

- 工業高校の生徒が電動車椅子を学ぶ・・・・・・・・・・1 p
- エッセイ紹介・・・・・・・・・・2 p
- 【ふつう】ということについて・・・・・・・・3 p～4 p
- 工賃実績のお知らせ&新人紹介・・・・・・・・4 p





とっておきエッセイ紹介



皆さん『オランダへようこそ』というエッセイをご存知ですか？

以前「コウノドリ」というテレビでも紹介されました。

エッセイなので、それぞれの人がそれぞれの想いを感じて頂けたらと思っています。読んでみて下さい。

(文：ハートピア出雲 相談支援専門員 景山 一優)

「オランダへようこそ」

エミリー・パール・キングズレイ

私はよく「障がいのある子を育てるのってどんな感じ？」と、聞かれることがあります。そんな時私は、障がい児を育てるというユニークな経験をしたことがない人でも、それがどんな感じかわかるようにこんな話をします。

赤ちゃんの誕生を待つまでの間は、まるで、素敵な旅行の計画を立てるみたい。

例えば、旅先はイタリア。

山ほどガイドブックを買い込み、楽しい計画を立てる。コロシウム、ミケランジェロのダビデ像、ベニスの gondola。

簡単なイタリア語も覚えるかもしれない。とてもワクワクします。

そして、何ヶ月も待ち望んだその日がついにやってきます。

荷物を詰め込んで、いよいよ出発。数時間後、あなたを乗せた飛行機が着陸。

そして、客室乗務員がやってきて、こう言うのです。

「オランダへようこそ！」

「オランダ？」

「オランダってどういうこと?? 私は、イタリア行きの手続きをして、イタリアにいるはずなのに。ずっと、イタリアに行くことが夢だったのに」

でも、飛行計画は変更になり、飛行機はオランダに着陸したのです。あなたは、ここにいないではありません。

ここで大切なことは、飢えや病気だら

けの、こわくて汚れた嫌な場所に連れてこられたわけではないということ。

ただ、ちょっと「違う場所」だっただけ。

だから、あなたは新しいガイドブックを買いに行かなくちゃ。

それから、今まで知らなかった新しい言葉を覚えなくてね。

そうすればきっと、これまで会ったことのない人たちとの新しい出会いがあるはず。

ただ、ちょっと「違う場所」だっただけ。

イタリアよりもゆったりとした時間が流れ、イタリアのような華やかさはないかもしれない。

でも、しばらくそこにいて、呼吸をととのえて、まわりを見渡してみると、

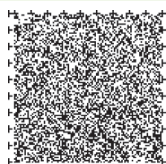
オランダには風車があり、チューリップが咲き、レンブラントの絵画だってあることに気付くはず。

でも、まわりの人たちは、イタリアに行ったり来たりしています。そして、そこで過ごす時間がどれだけ素晴らしいかを自慢するかもしれないのです。

きっと、あなたはこの先ずっと「私も、イタリアへ行くはずだった。そのつもりだったのに。」と、いうのでしょうか。

心の痛みは決して、決して、消えることはありません。だって、失った夢はあまりに大きすぎるから。

でも、イタリアに行けなかったことをいつまでも嘆いていたら、オランダならではの素晴らしさ、オランダにこそある愛しいものを、心から楽しむことはないでしょう。



いろいろな人の【ふつう】という考え方について

職場の全体朝礼の最後にその日に進行をした職員がちょっとした話をする機会があります。その内容は職員の職種を活かした情報提供、趣味や最近読んだ書籍やテレビの話題など多岐にわたります。美味しい卵かけご飯の作り方や肩凝り予防のストレッチなどもありました。最近私が話題に出した“【ふつう】について”をご紹介します。

最近【ふつう】について考えるきっかけになることが2つありました。

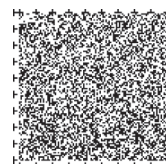
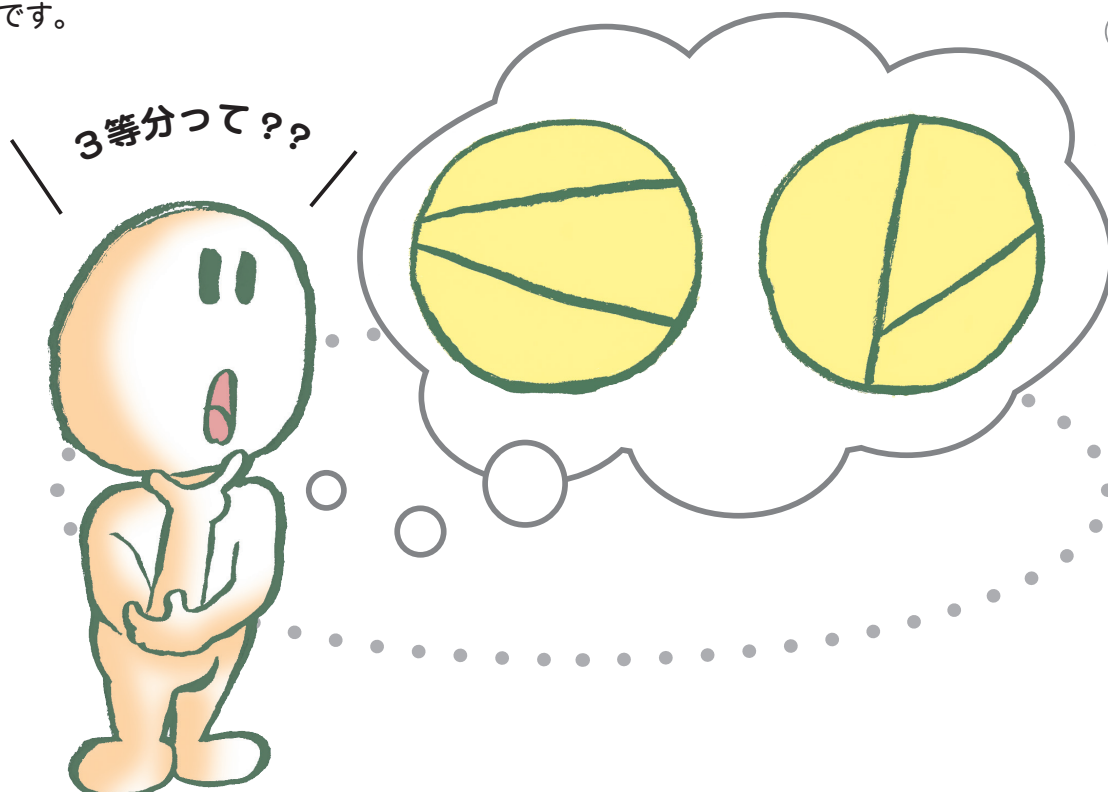
1つ目はたまたま目にしたちらしでした。

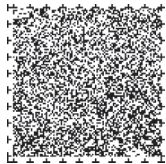
ちらしには、“あなたのふつうは大丈夫ですか”“仕事があるのは普通？お給料をもらえるのは普通？残業をするのは普通？”などが書いてありました。コロナ禍において、仕事があることもお給料をいただけることも普通ではないことは多くの方が感じられることでしょう。仕事をさせていただくことができるのは、関わる多くの方の存在や努力があつてのことだと思います。コロナ禍で通常よりも仕事量が増え、気持ちも慌ただしく、残業をするのが日常のようになっているかもしれません。業務を見直し、考え工夫をし、計画的に業務にあたり、その成果があり定時に帰宅した後は、自分や家族との時間や、どなたかのお役に立てる時間に使えるといいなあと思っています。

ここからは朝礼では話していない2つ目のきっかけです。それは“ケーキの切れない非行少年たち”の著者：宮口幸治さんの書かれた新聞記事の挿絵でした。

それは、医療少年院の少年たちに紙に描いた○をホールのケーキに見立てて3等分に切るように伝えた結果、いろいろな3分割されたケーキの挿絵でした。自分ならとある高級外車のエンブレムのように3等分に切るかなあと思い、いろいろな3等分の考え方の違いを新鮮に感じました。彼らの様々な3等分の理由は、実は複雑な背景があり、今読み進めている書籍“ケーキの切れない非行少年たち”で近々わかりそうです。

4ページにつづく





この2つのきっかけから【ふつう】ってなんだろう？と考える日常が続きました。

そして意識をすると自然と会話の中で「【ふつう】こうだと思いますが、どう思いますか？」と度々耳にするようになりました。このフレーズは自分が思っている【ふつう】と自分以外の【ふつう】が大きく違うときに、いろいろな感情を伴って発生するフレーズだと思われます。誰かの【ふつう】を自分に強制されると辛くなることがあり、反対に自分以外の人を無意識のうちに辛い思いにしているかもしれません。

普段、意識をしないと考える【ふつう】について少し時間をかけて考えてみると、多くの【ふつう】という考え方があることを再認識しました。そして自分の考える【ふつう】の概念で人を見ず、自分が思っている【ふつう】にこだわりすぎず、考え方を少しラフにすると穏やかに過ごせるのかなぁと思いました。

(文：法人本部事務局 高橋 悦子)

【工賃実績のお知らせ】

島根県	事業所数		平均工賃月額 (円)			前年度比 R2/R元
	R元	R2	H30	R元	R2	
就労継続支援A型(雇用型)	33	31	88,312	91,513	95,329	104.2%
就労継続B型(非雇用型) (工賃向上計画対象事業所)	123	125	19,672	20,120	19,201	95.4%

○島根県内の障がい者就労支援事業所等における工賃状況(令和2年度実績)

工賃向上計画の対象事業所の平均工賃は月額 19,201円で、前年度比 919円減りました。

○障がい者就労支援事業所 ワークセンターフロンティアの令和2年度就労継続支援B型事業における平均工賃は月額 28,235円 になりました。(令和3年度目標工賃は25,500円です)

(ワークセンターフロンティア
サービス管理責任者 柳楽武臣)

よろしくお願いします！～新人職員の紹介～



安立多恵子

6月から児童指導員として入職した、言語聴覚士の安立多恵子です。

3月まで福岡県の大学で言語聴覚士を目指す学生を育てていました。その他ことばなどコミュニケーションを促す働きかけを中心に、子どもたちに係わってきました。ハートピア出雲ステップとスマイルで、皆さまのお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いします。



景山 良加

6月からハートピア出雲スマイルの看護師として働いています景山良加です。これまでは、総合病院やクリニック、訪問看護で働いていました。娘もハートピア出雲の卒業生でお世話になりました保護者の一人です。子どもたちと遊び仲良くしてもらえよう頑張ります。



川上 優子

2月からハートピア出雲スマイルの保育士として勤務している川上優子です。かわいい子どもたちに囲まれて毎日楽しくお仕事させていただいています。どうぞよろしくお願いします。

編集後記

◆あるNHKの特番で、かつて“世界で最も売れなかったゲーム機”と揶揄されたマシンがあったことを知り驚きでした。任天堂やソニー、セガ等がしのぎを削る家庭用ゲーム機 戦国時代の頃にバンダイから(現バンダイナムコ)発売され、わずか4万台しか売れなかったその名も「ピピンアットマーク」。失敗の主な原因としてはソフト不足や高価格など…。当時(90年代半ば)としては画期的なネット接続機能を搭載していたことも、時代的に進みすぎていた！のか、ユーザーからは不評だったらしいです。【編集長 米山】

